

# 令和7年度普及活動アルバム

松本農業農村支援センター

令和7年度は、凍霜害や台風など大きな気象災害はなかったものの、記録的な高温、干ばつ傾向により多くの作物が品質や収量などに大きな影響を受けました。また、国際情勢等を背景とする生産資材・光熱費等の高止まりや、米価の高騰など農業を取り巻く環境は非常に厳しい1年でした。こうした中、水田乗用除草機・抑草ロボットの実演会、緑肥活用研修会、環境にやさしい農業に関する情報交換会など農業者や関係機関・団体との連携、役割分担による活動を展開しました。



## 【4月～10月】 新規就農者の栽培技術向上 支援

新規ぶどう栽培者の技術向上を目的に指導会を実施しました。

栽培に必要な基礎知識を身につけ、ほ場を適切に管理できるよう、月1回巡回し、個別支援も行いました。



## 【6月】 環境にやさしい農業の推進

令和7年度は、前年度までの取組成果を広く共有するため、乗用除草機、抑草ロボットによる実演会を開催しました。

生産者、JA、行政機関等約60名が参加し、意見交換も活発に行われ関心の高さが伺えました。



**【7月】**

### **環境にやさしい農業の推進**

環境に配慮した農業生産が求められる中、本年は生産者を対象として緑肥を活用したスイートコーンの減肥栽培について現地検討会を開催しました。

参加した生産者の中から、緑肥を活用し減肥栽培に取り組まれる方が出てきました。



**【7月】**

### **産地強化支援**

安曇野市では、特産品である「わさび」の維持、発展を目的に、「安曇野わさび産地強化プロジェクト」が立ち上げられており、支援センターもチーム構成員として参加しています。

栽培における問題点の把握、課題解決に向けた試験設置、意見交換などの支援を行いました。



**【7月】**

### **担い手育成支援**

農業経営者協会安曇野支部、松筑支部、北安曇支部、農業士協会安曇野支部合同で南安曇農業高校との交流会を実施しました。

参加者は53名で、他産業から就農した方、令和8年4月就農予定の農業大学校生から農業を志したきっかけ等の発表や、意見交換を行いました。



**【8～2月】  
新規就農者の栽培技術向上  
支援**

新規就農者が栽培技術、経営管理能力の習得による、資質向上を図るとともに、仲間作りを促進するため、アグリマスターセミナーを開催しました。基礎コース 14 名、経営コース 19 名に修了証を交付しました。

受講者から、学んだ内容を今後の農業経営に活かしたいとの声が聞かれました。



**【10月】  
担い手育成支援**

J Aあづみ、松本市では、新たな人材確保を目的に令和6年度に「梓川果樹産地新規就農者支援事業」という研修事業を立ち上げました。

本年度は、研修希望者を掘り起こすため就農体験会の開催支援を行いました。19名の参加申込があり、就農時期を検討する方も現れ、事業に興味を持ってもらうことができました。



**【10～3月】  
農村生活マイスターの活動  
支援**

農村マイスター協会では、地域の食の伝承等の活動を続けています。松筑支部では、伝統野菜の理解を深めた郷土食の調理実習を、安曇野支部では、仏事などに食べられる「のりまん」に関する研修会を開催しました。



**【12月】**

**青年農業者の活動支援**

松本市内の若手農業者で構成される、「松本市新しい農業経営者協議会」では、新たな取組を計画するための意見交換を行いました。

ワールドカフェ形式によるグループワークを行い、取組みたいこと、実現可能なことについて、具体的なアイデアやイメージを持つことができました。



**【1月】**

**環境にやさしい農業の推進**

環境にやさしい農業に取り組む生産者や県認証取得者、環境直接払い組織へ広く呼びかけ、情報交換会を開催しました。32名の参加があり、情報交換会で参加者同士の積極的な意見交換が行われ、環境にやさしい農業に取り組む仲間とのつながりの場となりました。



**【1月】**

**青年農業者の交流推進**

本年度は、各青年クラブにも協力してもらい、「交流チーム」を結成し、松本地域の青年農業者交流会を企画しました。第1部でプロジェクト活動発表、第2部で交流会を行いました。

各青年クラブの協力により、前年度より参加者が増加し、開催後のアンケートでも高評価となった交流会となりました。